

森林自然公園の利用促進方策に関する基礎的研究 — 宇美町一本松公園のPark-PFI導入事業を事例として —

福岡大学大学院工学研究科建設工学専攻
福岡大学工学部社会デザイン工学科

学生会員 ○遠藤侑輝
学生会員 松元大樹 正会員 池田隆太郎, 柴田久

1. はじめに

平成 29 年の都市公園法の改正によって「公募設置管理制度（以下、Park-PFI）」が新たに導入され、公民連携による都市公園整備事業が平成 30 年 12 月までに全国で 18 件報告されている¹⁾²⁾。こうしたなか福岡県糟屋郡宇美町では、平成 27 年度より地域活性化を目指した「一本松公園基盤整備事業（以下、本事業）」が開始され、Park-PFI 導入による一本松公園の有効活用が検討されている。一方、既存研究においては都市公園を対象に、PFI 事業における民間事業者の持続的な収益性³⁾や公民連携による飲食店設置後の賑わい効果等について明らかにした研究⁴⁾等が見られ、非都市部の森林自然公園に対する Park-PFI 導入について論じた研究は未だ見られない。

よって本研究では、一本松公園を事例に公園利用者と公園管理者の両者に対するヒアリング調査を実施し、公園の利用実態やニーズ等に対する意見の把握と比較検討を行うことで、森林自然公園に対する利用促進方策としての Park-PFI 導入の課題について考察を行う。

2. 一本松公園利用者に対するヒアリングおよび実態調査

(1) 調査概要

公園利用者に対する調査日は、最も利用者が多い夏期および秋期の休日「平成 30 年 7 月 15 日、11 月 4 日の日曜日」、加えて平日の「11 月 16 日金曜日」の計 3 日間で実施した。なお調査時間帯は 3 日間全て 10 時～17 時の間で行った。調査項目として「公園の満足度」「良い点・悪い点」「一本松公園にあればいいと思うもの」「一本松公園で出来そうなこと・やりたいこと」を設定した。調査地点は利用者が最も多い「水遊び場付近（写真-1）」と「キャンプサイト付近（写真-2）」とし、それぞれ被験者の総数は 72 名、62 名であった。



写真-1 水遊び場付近の様子



写真-2 キャンプサイト付近の様子

(2) 公園利用者の満足度とニーズの特徴

一本松公園に対する満足度について、水遊び場付近では「満足」との回答が 32 件（72 名中 44%）、「やや満足」が 28 件（39%）得られた。さらにキャンプサイト付近では「満足」が 31 件（50%）、「やや満足」も 20 件（32%）と、両エリアとも約 8 割の利用者から高評価を得る結果が得られた（表-1）。「良い点・悪い点」については、良い点として「自然豊か」が 3 日間の調査で計 27 件、「無料で利用できる（計 22 件）」「利用者が多くないため利用しやすい（計 10 件）」等の意見が得られた。悪い点では「トイレが汚い、少ない（計 50 件）」「マナーが悪い（計 11 件）」等の意見が確認された（図-1, 2）。「あればいいと思うもの」に関しては、水遊び場付近では「更衣室、シャワー室（計 19 件）」「売店（計 15 件）」、キャンプサイト付近では「自然を活かした遊具（計 13 件）」「テントが張りやすい平坦な場所（計 10 件）」「電源（計 2 件）」等の意見が把握された。これに対し「このままがいい・自然を残してほしい」との意見も計 17 件得られた。また「出来そうなこと・やりたいこと」については「自然を活かしたイベントや専門家による WS、音楽イベントの開催」等の意見が計 31 件得られた一方、「イベントの開催で利用者が増えても困る」との意見も計 12 件得られ、イベント開催による新たな利用者への懸念も把握された。

3. 公園管理者に対するヒアリング調査

公園管理を担当する宇美町役場職員に対して、一本松公園の現状や「良い点・悪い点」、Park-PFI を導入しようとする際の留意点等について意見聴取を行った。その結果、Park-PFI の導入時に行う手続きサウンディング時の問題点として「一本松公園がこういった場所なのか、民間事業者に対し全く知られていなかった」ことが挙げられ、そのため「公園の特徴や事業内容を知ってもらうのに苦労した」などの回答が得られた。またサウンディングの中で民間事

表-1 一本松公園の満足度

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	合計
水遊び場付近	32(44%)	28(39%)	12(17%)	0(0%)	0(0%)	72
キャンプサイト付近	31(50%)	20(32%)	11(18%)	0(0%)	0(0%)	62



図-1 水遊び場付近のヒアリング調査結果



図-2 キャンプサイト周辺のヒアリング調査結果

表-2 Park-PFI 事業担当者へのヒアリング調査結果

問1: 民間事業者に対しマーケットサウンディングをする際の問題点 - 一本松公園がどういった場所なのか民間事業者から全く知られていなかったため、公園の特徴や事業内容の提示が困難であった 「施設の老朽化」「利便性の低さ」「若者に対するニーズ不足」というコメントがあった - サウンディング時に、公園のことを「初めて知った」という企業がほとんどであった
問2: 都市公園ではなく、一本松公園のような地方の森林公園でP-PFIを導入しようとする際の現状や課題点 - 都市部の公園と違い、一本松公園は収益を生むような仕組みが皆無であるため、市場性が生まれるような施設を自治体が投資してでも新設すべきだと考えていた - 公園管理を維持していくためには、経費が節減できるような取り組みを一本松公園の中で行っていたが、自治体だけではそのような取り組みは不可能 - 駐車場の有料化等をしてさらに利用者は減少する - 民間事業者から「収益を生む施設を新たに設けてもらうにはリスクが大きい」とのこと - 現在はドローン練習場による公園活用を目指した民間事業者が実証実験を行う予定 「初期投資がからず、現状の利用者への影響が少ないエリアのみの提供であるため、負担が少ない」等のメリットがある
問3: 一本松公園の「良い点・悪い点」について 【良い点】 - 自然豊か、市内から近い(アクセシビリティ) - 大手企業が多く存在する都市圏付近で、自然があり自由にドローンを飛ばせる場所が近くにない。そんな環境が求められているなかで一本松公園が候補に挙がった。 【悪い点】 - 施設にお金が掛けられていないので、老朽化が心配 - スマホ必須の世の中で、電源がない - 自然豊かならではの不便さを楽しみたい利用者のニーズはあるが、グランピングなど手ぶらで利用できるような現代の若者のニーズに答えられていない

業者側から「施設の老朽化」「利便性の低さ」「若者に対するニーズ不足」等、公園に対する問題点を指摘されていたことも把握された。また一本松公園への Park-PFI 導入に向けては「都市部の公園と違い、一本松公園は収益を生むような仕組みが皆無であるため、市場性が生まれるような

施設を自治体が投資してでも新設すべき」「民間事業者からは収益を生む施設を新たに設けるにはリスクが大きいと言われた」等の意見が得られた。管理者からみた一本松公園の良い点としては「自然豊か」「市内から近い」等の意見が挙げられた。これに対し悪い点として「施設に費用が掛けられないので老朽化が心配」「電源がない」「グランピングに不向き」など、既存の公園施設では現代の若者のニーズに応えられていない旨の意見が得られた(表-2)。

4. 総合的考察

(1) 公園利用者と管理者における見解の差異

公園利用者の回答結果から、既存の公園施設の改善とともにイベント等による活性化を望む意見が把握された。一方で森林自然公園ならではの静けさや適度な利用者数、自然とのふれあいなどが満足度に繋がっていることや、マナーの悪い利用が増えることへの懸念も見受けられた。これに対し公園管理者へのヒアリング結果から、市場性を生む新たな施設を設けることで賑わいの創出を目指していた実態も把握され、一本松公園のニーズに対する両者の見解に差異のあることが明らかとなった。

(2) 非都市部にある森林自然公園に対する Park-PFI 導入の課題

一本松公園のような静寂な自然環境が魅力として認識されている森林自然公園では、収益を優先した民間事業者が選定されることで、既存利用者が親しんでいる公園の魅力をかえって損なわせるリスクも指摘できる。一方、非都市部にある公園の Park-PFI にかかるサウンディングにおいては、公園の良さをいかにアピールするかとともに、民間事業者自身を見つけて出すことの困難さが把握されていた。よって非都市部における森林自然公園の Park-PFI 導入においては、利用者ニーズの把握を先行しつつ、環境改変に対するリスクマネジメントとともに、自然環境の保全を両立させる収益事業を上記アピールのなかでいかに位置づけていくかが課題となるだろう。

【参考文献】

- 1) 一般社団法人日本公園緑地協会, Park-PFI 推進支援ネットワーク: <https://park-pfi.com/>
- 2) 国土交通省公園緑地・景観課: 都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン, 2017
- 3) 朴柄晃, 飯田晶子, 横張真: 都市公園の運営における官民連携事業の公共性及び収益性に関する研究-千葉市豊砂公園パークマネジメント事業を事例に-, 日本都市計画学会都市計画論文集 No.16, pp.182-187, 2017
- 4) 本間拓実, 松行美帆子: 都市公園への飲食店設置における効果・課題に関する研究, 日本都市計画学会都市計画論文集 No.16, pp.378-382, 2018